

平成24年度事業報告書

自：平成24年4月 1日

至：平成25年3月31日

・事業実施概要

日本経済は、復興需要の牽引による緩やかな回復が期待されたものの、減速感を拭いきれずにいたが、新政権発足以後はアベノミクスによる円安・株高により、今後の経済再生への期待感が高まっている。

一方、乳業界においては、生乳生産基盤の回復と安定供給に資するバター・脱脂粉乳の在庫量確保を喫緊の課題としたが、平成24年度の生乳生産量は前年を上回る見通しであり、バターの追加輸入や脱脂粉乳のカレントアクセス前倒しにより、最需要期の供給も含め、バター・脱脂粉乳需給は大きな混乱なく推移した。

また、消費面では飲用牛乳消費の低迷が続くものの、発酵乳生産量は過去最高を更新、チーズ需要量は30万トンが視野に入る等の明るい話題もあり、次年度に向け生乳需給の拡大均衡が期待されている。

このような状況の中、平成24年度はアンケートやあるべき乳協検討プロジェクトにて議論された内容を踏まえ、新食品表示制度の立法化やTPPへの参加表明とその後の動向、消費増税対応等、新たに顕在化した課題も視野に入れ、以下の5つの重点課題への対応を柱とした取り組みを実施した。

第一：品質及び安全性の向上による消費者の安心・信頼の確保

牛乳・乳製品に対する消費者の安心・信頼を確保すべく、衛生及び品質の向上並びに放射性物質による風評被害の払拭を最重点課題として、人材の育成、乳等省令改正・表示一元化作業等への協力、各種ガイドラインの整備並びに正しい表示、法令・規則等の会員への周知に取り組んだ。

第二：牛乳・乳製品の普及啓発と需給の均衡

食育授業や食育勉強会、料理講習会等を通じ、牛乳・乳製品の持つ有用な機能等を広く普及・啓発した。また、公益目的支出事業の柱として6月の牛乳月間を中心に「おいしいミルクセミナー」や「全国一斉特別工場見学会」を企画、開催した。

併せて、電話相談やホームページを活用し、牛乳・乳製品の正しい知識の普及と啓発を促進した。

乳製品需給に関しては、需給予測を踏まえ、安定供給に資する適切な対応を行政に要請した。

第三：国際化の進展への対応

「T P P 交渉への参加に対しては、情報開示と十分な議論の不足、乳業市場に対する影響の大きさ等から、賛同できない」という乳協としての立場を継続する中で、交渉参加に関する動きを注視し、情報収集に努めた。また、参加表明に対しては、必要十分なプロセスを経ていないことから“遺憾”の意を示した。

第四：環境・リサイクル対策の推進

地球温暖化防止と循環型社会形成への対応に向けて、環境自主行動計画に取り組み、廃棄物処理コストの低減や再資源化等への共同取り組みを開始するとともに、環境マネジメントシステムの質的向上に資するため「環境法令・マネジメントデータベース」を作成した。また、「CO₂排出量の見える化」活動では紙パック牛乳に加え、びん牛乳のPCR認定を受けた。

3R推進活動として、「環境に配慮した容器包装ガイドライン」を策定公表、また、500ml牛乳パックの軽量化や飲料用紙パックのリサイクルに取り組んだ。容器包装リサイクル法見直しに向けて3R推進団体や食品産業センターの活動に参画した。

第五：乳業事業の改善と合理化の推進

農水省が公募する「乳業再編整備促進事業」に応募し採択された。8月～9月に地域説明会を開催し、内容の周知徹底と再編支援を行った。

また、震災時の牛乳・発酵乳・粉ミルクの安定供給という3つの課題について、課題検討会で議論し中間報告の取りまとめを行った。

・事業内容

1．品質及び安全性の向上による消費者の安心・信頼の確保

1) 牛乳及び乳製品の衛生及び品質の向上に関する事業

(1) 牛乳施設の衛生管理体制の強化

牛乳衛生講習会

- ・7月～11月に、全国15の地方協会(昨年比1か所増)との共催で実施した。
受講者数計477名(昨年 461名)

HACCP講習会

- ・春期は5月、東京及び大阪で実施した。受講者数計68名
- ・秋期は10月に東京、11月に大阪で実施した。受講者数計74名
受講者数は、春期・秋期合わせて142名となった。<4回開催>
(昨年受講者数 73名 <2回開催>)

官能評価員養成講習会

- ・平成24年10月～平成25年2月に、東京で4回、神戸で1回実施した。

受講者数計 108 名 (昨年 95 名)

微生物講習会

- ・平成 25 年 2 月に東京及び大阪で実施した。受講者数計 196 名 (新規取組)

(2) 牛乳・乳製品の安全確保の推進

放射性物質対応

- ・生乳段階における自治体モニタリングによる安全性確認を基本としている。外部環境については引き続き注視してきたが、現在のところ大きな変化は無かった。
- ・牛乳衛生講習会、ブロック会議にて、食品の放射性物質の新基準値及び関連情報について説明した。

会員・消費者等に対する牛乳・乳製品の安全・衛生に関する情報の提供

A . 6 月に牛乳関係法令集を刊行した。

B . 下記の行政情報をホームページで情報提供した。

- ・厚労省情報 乳等の販売用の合成樹脂製容器包装について (4 月 11 日付)
- ・農水省情報 食品中の放射性物質に係る自主検査における信頼できる分析等について (4 月 20 日付)
- ・厚労省情報 食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針 (ガイドライン) について (4 月 25 日付)
- ・消費者庁情報 コチニール色素に関する注意喚起 (5 月 11 日付)
- ・消費者庁情報 乳児用食品の表示基準に関する施行通知 (7 月 25 日付)
- ・厚労省情報 乳等省令の一部改正について (容器包装) (3 月 12 日付)

C . 当協会の Q & A 検討小委員会で検討してきた Q & A のうち、「乳飲料に使用する加工助剤の表示について」等、10 項目の Q & A を 9 月 6 日、ホームページにアップした。

D . 会員、消費者からの問合せに対して牛乳・乳製品に関する情報を提供した。

J ミルクの生乳検査精度管理事業への協力

- ・本制度の運用について必要な技術支援を行った。

残留農薬等自主検査

- ・J ミルク主催のポジティブリスト委員会で生乳段階での安全性確保事業に協力した。

生乳段階の平成 24 年度のポジティブリスト制度に係る管理対象物質等(検査対象物質) の検査は J ミルクが 11 月 ~ 12 月に 80 検体 280 件実施し、検査結果は全て基準値以下であった。

J ミルクではポジティブリスト制度施行 6 年を経過したことから、制度の再啓発用パンフレットを作製した。

- ・当協会では全国7地域で製造された実際の「牛乳」製品の残留農薬等検査を平成25年2月上旬に実施して、検査結果は全て基準値以下であった。

(3) 厚生労働省の乳等省令改正作業への協力

- ・厚生労働省の要請に応じて協力した。
- ・乳等省令の一部を改正するパブリックコメント(合成樹脂加工紙製容器包装について、内容物に直接接触する部分以外に使用できる樹脂にポリプロピレン及びナイロンを追加する)に賛成の意見を7月26日に提出した。翌年3月12日付けで省令が改正された。
- ・指定添加物であるビオチンの乳児用調製粉乳への用途拡大要請を7月3日に行い、12月28日に申請書を提出した。

(4) 消費者庁の食品表示規制改正作業への協力

- ・食品表示一元化検討会の中間論点整理に関するパブリックコメントに意見を提出した。(平成24年3月29日)
- ・その後、食品表示一元化検討会が行われ、平成24年8月に「食品表示一元化検討会報告書」が取りまとめられ、11月1日に新食品表示制度(案)が示され、パブリックコメントが募集された。会員からの意見を取りまとめ、当協会としての意見を提出した。(11月28日)

(5) 「乳製品(クリーム、バター、脱脂粉乳、全粉乳、練乳類)、乳等を主原料とする食品の表示ガイドライン」の整備

- ・公正競争規約が設定されていない乳製品等の表示ガイドラインを整備した。
- ・平成23年度に実施した市場からの買い上げ調査による乳製品等の表示が不適切な製品について、表示是正への意見を7社に発信して協力を求めた。
(是正意見発信日:平成24年3月30日及び4月12日)
- ・乳製品表示検討委員会を11月27日に開催し、平成24年度事業として市場より市販品を買い上げ、平成25年3月15日の乳製品表示検討委員会で表示指摘事項を確認した。市場買取した37品のうち、17品目(13社)について、当該会社へ当協会からの指摘意見を発信した。
- ・牛乳・乳製品の表示に関して会員からの問合せ対応を行った。(対応件数41件)

(6) その他(事業計画外)

- ・香港当局発表による日本製調製粉乳のヨウ素含量問題について消費者庁と関係企業との意見交換会を8月10日に実施した。また、平成25年2月20日の同省との意見交換会において、添加栄養素の規格をコーデックス規格と合わせ

て欲しい旨要望した。

2) 牛乳等衛生功労者の表彰

・10月5日(金)に選考会、11月16日(金)に表彰式を行った。

平成24年度の被表彰者、被贈呈者数は以下の通り。

厚生労働大臣表彰： 3名(昨年 1名)

会長表彰： 12名(昨年 6名)

会長感謝状： 6名(昨年 7名)

2. 牛乳・乳製品の普及啓発と需給の均衡

1) 牛乳及び乳製品に関する知識の普及啓発に関する事業

放射性物質に関する正しい知識の啓発と理解促進による、消費者の安心の確保を最優先事項とし、以下の項目について費用対普及効果を踏まえた活動を行った。

(1) 放射性物質に関する正しい知識啓発と理解促進

農産物の放射性物質汚染は低減されてきており、関係者の努力によって市場での安全性は確保されている。牛乳・乳製品に関しても消費者の不安も払拭されてきており、問合せの件数も減少している。

しかし、一部の消費者に関しては依然不安材料として残っており、引き続き丁寧かつ粘り強く不安の払拭に努めた。

8月27日に「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」を行うに当たり、放射性物質の新基準設定の背景とその後の状況に関して、全国100か所を目標に一般市民を対象に説明会と意見交換会を実施している、消費者庁消費者安全課金田直樹企画官に「食品と放射能」の講演をいただき、正しい知識普及に関する意見交換を行った。尚、講演内容については、ホームページに掲載している。

(2) 消費者相談業務

牛乳・乳製品に関する正しい知識普及や啓発のため、消費者からの牛乳・乳製品に関する質問に対し、随時迅速丁寧な対応を行った。最近では、放射性物質に関する問合せはほとんどなく、震災以前からある表示や保存方法等に関する問合せが主となっている。一般消費者の他にTV・新聞・雑誌などのマスコミ関係者、食育関係の教師(小学校から大学まで)ならびに乳業の製造業者などが、主たる相談者となっている。(対応件数：1,855件)

(3) マスコミ・関係団体対応

・酪農乳業ペンクラブ研修会

7月10日～11日 福島県酪農業協同組合・酪王乳業株式会社を訪問し、

震災後の酪農と乳業に関する現況を確認した。

10月23日 「最近の酪農乳業事情について」の講演会を開催した。
講演者：農林水産省 生産局 畜産部 牛乳乳製品課
乳製品調整官 渡辺 裕一郎様

・酪農乳業ペンクラブ懇談会

メーカーの広報担当者も含めた双方向のコミュニケーションの充実を図るべく懇談会を行った。

8月24日 メーカー3社広報担当者出席のもと、「牛乳・乳製品を使った料理を食し、『乳』を更に理解する。」をテーマに夏季懇談会実施した。

2月1日 「工場見学研修」を兼ねた「新年懇談会」として、
・東毛酪農業協同組合：群馬県太田市
・トモエ乳業株式会社：茨城県古河市
を見学し、意見交換を行った。

(4) 広報・PR (業界意見集約と積極的な情報発信・提供)

・本年度事業計画の業界誌への発信

6月19日 「日刊酪農乳業速報」 取材(専務・常務・常任理事対応)
7月3日 「日刊酪農経済通信」 取材(会長対応)

・食育関連事業の新聞掲載

8月1日 京都新聞に掲載(親子で体験セミナー)
8月2日 日本農業新聞に掲載(親子で体験セミナー)
8月29日 奈良新聞に掲載(食育授業)
12月28日 神戸新聞に掲載(食育授業)

(5) 出版(出版と出版物受益者負担拡大)

本年度より、「牛乳・乳製品 Q&A集」を受益者負担とした。販売価格は、送料込み735円とし、販売実績は143冊であった。

(6) 牛乳・乳製品から食と健康を考える会

計画通り4回開催し、テーマ及び講演者は、以下の通りである。

- ・ 5月14日 「プロバイオティック乳酸菌の特性解析と新機能性ヨーグルト」
東北大学 齋藤忠夫教授
- ・ 8月27日 「食品と放射能」
消費者庁消費者安全課 金田直樹企画官

- ・ 11月12日 「BSEの現状とリスク、その対策について」
厚生労働省 国立医薬品食品衛生研究所 山本茂貴部長
- ・ 2月18日 「牛乳・乳製品の最新の有用情報（生活習慣病関連）」
女子栄養大学 上西一弘教授

内容については、ホームページに掲載している。

尚、本年度からオピニオンリーダーを情報発信力のある11名（昨年は21名）に絞り込むことにより、少人数による議論の活性化が図られ、会の形が受講スタイルから参加発言スタイルに変わった。

（7）その他

- ・ 農林水産省の主催による「食と農林漁業の祭典」の一環として、11月4日（日）JAPANFOOD FESTA2012が開催された。当協会は㈱明治、森永乳業㈱、雪印メグミルク㈱との共催で、有楽町駅前にて牛乳のサンプリングを行った。準備した牛乳1000ml、180本を約2,200人の方々に飲んでいただき、好評であった。
- ・ 食育に関して、「Jミルク他関係団体と現状の活動内容を確認し、今後は、効率化に向けた棲み分け、連携強化を検討していくことを確認した。
（第1回：6月3日 第2回：10月3日 第3回：12月6日）
- ・ 厚生労働省の「日本人の食事摂取基準（2010年版）」に準拠して、学校給食摂取基準の改正内容が文部科学省から発表された。その中で、カルシウムについては、基準値、目標値の設定から基準値のみの設定（目標値の廃止）に変更となった。
この変更による学乳の消費減懸念から、当協会としてパブリックコメントを発信した。（平成24年12月11日）

《パブリックコメントの骨子》

「学童、児童のカルシウム摂取の重要性について、より一層の注意喚起を要望する」

2）牛乳・乳製品の食文化を育成・啓発する事業（公益目的支出計画）

（1）おいしいミルクセミナー

牛乳・乳製品の食文化を育成・啓発する事業として、牛乳・乳製品の「栄養的重要性」、「おいしさ・楽しさ」をアピールする目的で、「牛乳月間」に併せ、関東地区、関西地区、東海地区で開催した。

予定を上回る多くの方の応募があり、来場されたお客様の好評を得た。今年度は、出展企業のPR、中央酪農会議との連携等の新たな取り組みを加え、有意義なセミナー

ーが実施できた。

(2) 全国一斉特別工場見学

今年度は37工場の参加があったが、昨年度より11工場減少した。6月の牛乳月間に軸足を置き特別工場見学に参加するメーカーと、特別工場見学に参加せず、年間を通じて見学を受け付けているメーカーとに分かれている。

次年度は、参加工場数の拡大に向け、年間を通じ随時受け付けているメーカーの参加を視野に入れた活動を実施していく。

(3) 相談員派遣業務

児童・生徒対象の食育授業「わくわくどきどきミルク教室」を、目標200回開催に対し、231回開催した。

食育に携わる教諭を対象とする研修とPTA対象の料理講習会・勉強会については、目標70回に対し、74回実施した。

管理栄養士を目指す大学生（市民大学などの一般聴講生を含む）などを対象とする牛乳・乳製品の普及・啓発活動である『3-A-Day 実施・推進セミナー』についても、目標6回を上回る9回開催した。

市民講座や料理学院などへの相談員派遣業務は、17回を目標としていたが、目標を上回る34回の実施となった。

(4) 都道府県協会会員への普及活動指導

本事業は、都道府県協会会員の主催するイベント時に行う『骨密度測定』や『栄養指導に対する相談員派遣』である。本年度の実施状況は、下記の通り。

実施日	実施県	(イベント名)	骨密度測定者数
9月15日～16日	岩手県	(いわてミルクフェア2012)	300名
9月19日	愛知県	(高校生の骨密度測定体験)	236名
10月6日～7日	神奈川県	(畜産フードフェア)	683名
10月6日	埼玉県	(彩の国畜産フェア2012)	270名
12月2日	広島県	(We LOVE MILK フェスタ)	101名
3月3日	福岡県	(学校給食フェア)	139名
			合計1,729名

(5) その他

Jミルクが契約している「3-A-Day」キャラクターの契約終了（Jミルクは、平成25年2月28日を以って契約更改しない）による使用中止は、

・当協会の普及、食育活動において「3-A-Day」はキーワードとなっており、現在

使用しているキャラクターは、「3-A-Day」活動のトレードマーク的な位置付けとなっている。従って、このキャラクター使用中止による「3-A-Day」活動へのマイナス影響は大きい。

- ・現「3-A-Day」キャラクターを活用してきた当協会ならびに各都道府県の食育活動や、普及・啓発活動の連続性が途絶える。
- ・新たなキャラクターを採用する場合、新規開発及び浸透定着には多くの費用や長い時間を要する。

等の理由から、当協会が直接契約して、現在使用している「3-A-Day」キャラクターを継続して使用できるように交渉を進め、契約に至った。このため、関係会員には、「継続使用可能」の案内を行った。

3) 需給の均衡

(1) 牛乳・乳製品の需給予測

5月22日、9月13日、12月13日、2月13日に需給委員会を開催し、需給予測結果をホームページに掲載した。また、農水省とALICに同予測結果を報告し、必要な対応について要請した。

(2) 乳製品需給の過不足対応

年末の需要期に向けた対応としてバターの2,000トンの追加輸入が実施され(8月3日 発表)、脱脂粉乳については5,000トンのカレント(平成25年度枠)輸入入札が実施された。

3. 国際化への対応

1) 業界意見の集約(乳業基本問題検討委員会)

新政権は、3月15日にTPP交渉への参加を表明し、その影響額についての新たな試算値(影響)を公表した。当協会としては、参加表明に対して必要十分なプロセスを経ていないことから“遺憾”の意を示し、3月21日の基本問題検討委員会にて、今後の対応について意見交換を実施した。

2) 行政への提言・意見具申

4月13日に、TPPに関する意見交換会を実施した。(内閣官房、経済産業省、外務省、農林水産省臨席)

また、1月16日に行われた「食料・農業・農村政策審議会 畜産部会」の場でTPP交渉参加問題に対し「農業者も食品製造者も将来展望を描くことのできるビジョンや政策等をしっかりと議論し、国民の合意の後に、その方向性が定められるのが道筋」という当協会の考え方を、中野会長が意見として申し述べた。

4. 環境・リサイクル対策の推進

1) 環境問題への取り組みに関する事業

企業の社会的責任(CSR)における課題は年々クローズアップされており、会員への情報提供のため、最新の情報収集、会員相互の情報交換、共同に取り組める機会の創出により環境保全への取り組み推進が求められている。今年度は主に会員間での情報交換および共同取り組みの機会を提供することを目的として、以下の3つのワーキングを結成し、具体的な取り組みを進めた。

【廃棄物処理改善ワーキング】

企業の壁を越えた廃棄物処理によるトータルのコスト削減、再資源化率の向上を共同で進める。

【環境マネジメントワーキング】

最新の環境法令等を乳業用に利用しやすくまとめたデータベースの作成および会員への情報提供を進める。

【びん牛乳PCR策定ワーキング】

昨年の紙パック入り牛乳認定に引き続き、びん入り牛乳のPCR認定を進めて、会員の省CO₂活動を支援する。

以上のワーキングの成果を会員に還元するために、協同取り組みの参加呼び掛けを開始した。

平成24年度事業計画の進捗状況は下記の通り。

(1) 地球温暖化防止の取り組みに関する事業

環境委員会に参画している各社の省エネ努力が実り、2011年度のエネルギー使用原単位は前年比で約6%改善した。各社の省エネ事例を取りまとめて経団連に提出した。(提出日:10月10日)

しかし、原発停止の影響により電力のCO₂排出係数が前年比で24%悪化したことで、CO₂排出原単位は前年比で約1%悪化し、CO₂排出量は109.5万tと前年比で約3万8千トン(3.6%)増加した。

(2) 循環型社会形成推進の取り組みに関する事業

「廃棄物処理改善ワーキング」の取り組みにより、廃棄物の再資源化率は、目標の96%に対し、95.82%まで改善した。地域プロジェクトとして北海道及び沖縄県で廃棄物を資源物にし、処理コスト改善を共同で進める取り組みを開始した。

(3) CO₂排出量の見える化の取り組みに関する事業

「びん牛乳PCR策定ワーキング」が「びん牛乳」のPCR(商品種別算定基準)を策定し、パブコメを受けて11月21日に正式に認定された。認定PCRに基づき、

「牛乳」のライフサイクル工程ごとのCO₂排出量負荷をセルフチェックするツールを作成した。

(4) 環境マネジメントの向上に関する事業

「環境マネジメントワーキング」で、乳業者用の環境法令・マネジメントデータベースを作成し、都道府県協会を通じて環境法令およびマネジメント状況をセルフチェック可能なデータベースを会員に送付し、会員事業所でのセルフチェックを開始した。

2) 容器包装の3Rへの対応に関する事業

改正容器包装リサイクル法の見直しに関して、特定事業者の役割を一部変更し再商品化に加え、選別保管費用についても事業者負担とする動き等があり、見直しに向けて動向を注視していく必要がある。

また、このような動きに対して、乳業者として容器包装の3Rの推進など、環境配慮設計を意識した体制づくりを進めなければならない。

そのために、「容器包装の3R推進と環境配慮設計のガイドライン策定ワーキング(略称:容器包装ガイドライン策定ワーキング)」を結成し、まずは会員間の情報の共有化から、取組みを進めた。

平成24年度事業計画の進捗状況は下記の通り。

(1) 容器包装の3R推進と環境配慮設計のガイドライン策定推進

「容器包装ガイドライン策定ワーキング」により、乳業メーカーとして消費者に発信できる容器包装の環境配慮設計ガイドラインを策定し、ホームページで一般に公表した。

(2) 飲料用紙パックのリデュース活動の推進

2011年度における500ml牛乳パック原紙のリデュース率は、2015年度までに3.0%という目標に対し、実績は0.3%であった。この結果を、12月に3R推進団体連絡会として公表した。

(3) 飲料用紙パックのリサイクル活動の推進

全国牛乳容器環境協議会(容環協)および飲料用紙容器リサイクル協議会が、容器包装リサイクル法の見直しに向けて「紙パック回収率向上の取組みと容器包装リサイクル法改正に向けての提言(案)」を取りまとめて、10月に3省5課および関係団体への説明を行った。

(4) 3R推進団体連絡会及び食品産業センターに参画する活動

3R推進団体連絡会の容器包装3R制度研究会、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会の企画運営、広報に参画し、3Rフォーラムや市民自治体との意見交換会を行なった。また、食品産業センター環境委員会において、乳業としての意見、要望を反映した提言を行なった。

5. 乳業事業の改善と合理化の推進

1) 「食料・農業・農村基本計画」「酪肉近基本方針」等の推進に関する対応

農林水産省との意見交換会を10月10日に行い、バター・脱脂粉乳の需給、3つの課題分科会などについての意見交換を行った。

また、10月19日に、畜産部会委員による「畜産をめぐる情勢等についての意見交換会」が農林水産省において開催され、中野会長が出席した。

食料・農業・農村政策審議会 畜産部会については、第1回目が1月16日に、第2回目が1月25日に開催され、中野会長が出席した。第1回目の同畜産部会において、基本問題検討委員による書面協議にて喫緊の課題として捉えた「生産基盤の回復と消費の維持・拡大、およびこれを可能とする需給の安定」について意見を述べ、ルールに基づいた補給金単価の算定と需給実態に則した限度数量の設定を要請した。2回目の同畜産部会では、当協会の意見が反映されていることから、諮問案に賛同した。

2) 乳業再編事業への参画と推進

乳業再編整備促進事業の公募に対して5月16日に応募、6月14日に計画が採択された。

8月1日と3月19日に全国協議会と企画検討委員会を同時開催した。また、9月に全国6農政局管内で説明会を実施した。

3) 3つの課題分科会

3つの課題分科会において、首都直下地震の発生を想定した「牛乳乳製品の安定供給」について議論検討を行った。その概要については、下記の通りである。

工場稼働分科会

東日本大震災の被災実態を踏まえ、対策検討に関して細部にわたる前提条件を整理すると共に、白物(1000ml)・はっ酵乳プレーン(400g以上)に関する現状供給力と消費量を確認し、首都直下地震時に想定し得る被害(工場稼働状況等)に基づく需給ギャップや他エリアからの移入可能量等を協議・検討した。その内容については詳細等を精査中である。

今後の課題は、被災時の供給力や需給ギャップ等に関する数値の検証、自家発電や燃料備蓄、耐震性向上等に関する具体策、および中長期視点による全国規模での

工場の分散配置の可能性にかかる検討とした。

共通包材分科会

東日本大震災の被災実態を踏まえ、検討に関する前提条件を整理すると共に、被災時の牛乳供給量最大化を目的とし、共通して使用が可能な牛乳1000mlゲージ容器の実現化に向けた協議・検討を実施した。共通包材に関しては、大手製紙メーカーへのヒヤリング等を行いその実現可能性を協議した。また、表示等に関する行政の許認可項目を整理し、共通 JAN コード取得可否を確認した。更に、サプライチェーン全体にも影響を及ぼすことから、別途、“サプライチェーンワーキング”を立ち上げ、同一 JAN コード製品におけるメーカー識別方法等に関する議論や、受発注システムや代金請求システム等の運営に関する問題点について検討した。

今後の課題は、同一 JAN コード使用による電算システム運用可否確認等、今年度実施した協議・検討事項の最終確認とパッケージデザイン案の作成、およびサプライチェーン全体の環境整備（告知や協力体制構築方法等）とした。

粉ミルク備蓄分科会

東日本大震災発生時の粉ミルク供給不足から、首都直下地震発生を前提とした安定供給に資する備蓄体制の構築を目的とし、備蓄場所や備蓄量、発生費用とその負担等について議論を実施した。東日本大震災被災実態を踏まえ、想定される工場損壊と備蓄必要量を定め、行政に対する輸送支援や必要費用積算、および在庫管理方法に関する検討を行った。また、流箱方式による在庫管理を前提とした場合、保管キャパシティに限りがあることが確認されたため、これ以外の対処方法についても検討を行った。

今後の課題は、備蓄以外の方法に関する更なる検討と地方自治体との協働、および政府からの指示・情報伝達方法と確認した。

6. 事業共通の取り組み

1) ホームページの充実、情報伝達の迅速化の更なる推進

(1) 放射性物質対応にかかわる情報のHP掲載

放射性物質に関するQ & Aをホームページに掲載した。

(2) 「日本乳業年鑑」データのホームページ掲載

「日本乳業年鑑」データをホームページに掲載した。

来年度に向け、掲載から受益者負担を前提とした冊子への変更を検討した。

(3) その他

総会、理事会の付議事項や議事録について、また上期ブロック会議及び全国事務局長会議の場での質問・意見・要望と、それに対する回答をホームページに掲載し、共有を図った。

厚生労働省・農林水産省等からの通達等、伝達すべき情報についてもホームページに掲載した。

2) ブロック会議及び全国事務局長会議等の開催

(1) ブロック会議について

ブロック会議を、上期、下期2回開催し、当協会の事業活動の周知と意見交換を行った。開催時期と会議内容は、下記の通りである。

【平成24年度上期ブロック会議】

- ・開催期間 6月27日から7月23日にかけて8ブロックで開催
- ・会議内容 平成24年度の事業計画について

【平成24年度下期ブロック会議】

- ・開催期間 2月14日から3月24日にかけて8ブロックで開催
- ・会議内容 平成24年度活動状況について
平成25年度事業計画案について

(2) 全国事務局長会議について

12月14日(金)に、下記内容で開催した。

- ・平成24年度中間事業活動について
- ・平成25年度事業計画骨子(案)について

以上

《会議等開催実績》

・総会及び理事会等

開催日	開催名
平成24年 4月20日	第5回理事会
" 5月18日	第1回定時社員総会
" 18日	第6回理事会
" 8月 3日	第1回常任理事会
" 10月 5日	平成24年度牛乳等衛生功労者表彰式選考会
" 26日	第2回賛助会員の会
" 11月16日	第7回理事会、会員企業代表者会議
" 16日	牛乳等衛生功労者表彰式
" 12月14日	全国事務局長会議
平成25年 1月 8日	乳業団体合同新年賀詞交換会
3月 8日	第8回理事会

・その他

1. 会員の総会等への出席

開催日	開催名
平成24年 4月25日	九州牛乳協会総会 (於：鹿児島市)
" 5月16日	長野県牛乳協会総会 (於：長野市)
平成25年 3月15日	(社)福島県牛乳協会解散総会 (於：福島市)
" 15日	福島県牛乳協会設立総会 (於：福島市)

2. ブロック会議

開催日	開催名
平成24年 6月27日	関東・甲信越地区 (於：茨城県)
" 7月 2日	近畿地区 (於：大阪府)
" 6日	北海道地区 (於：札幌市)
" 11日	九州・沖縄地区 (於：福岡県)
" 12日	東海・北陸地区 (於：愛知県)
" 18日	四国地区 (於：高知県)
" 19日	東北地区 (於：岩手県)
" 23日	中国地区 (於：広島県)
平成25年 2月14日	関東・甲信越地区 (於：東京都)
" 18日	近畿地区 (於：大阪府)
" 21日	東海・北陸地区 (於：福井県)
" 25日	東北地区 (於：宮城県)
" 3月 4日	四国地区 (於：香川県)
" 5日	九州・沖縄地区 (於：福岡県)
" 11日	中国地区 (於：広島県)
" 14日	北海道地区 (於：札幌市)

・企画・広報部

【企画関係】

1．乳業基本問題検討委員会関連

開催日	開催名
平成24年 4月13日	T P P 意見交換会（政府）
” 7月12日	農水省、本田班長、片割れ認定打合せ。
” 8月21日	”
” 9月21日	農水省、菅家課長、香港粉ミルク意見交換会。
平成25年 3月21日	乳業基本問題検討委員会

2．需給委員会関係

開催日	開催名
平成24年 4月23日	バター・脱粉に関数農水省調整官との意見交換
” 5月 8日	需給について農水省渡辺調整官との意見交換
” 22日	需給検討委員会
” 9月13日	”
” 12月13日	”
平成25年 2月13日	”

3．乳業再編事業関係

開催日	開催名
平成24年 7月26日(2日間)	青森県、コンサルティング
” 8月 1日	乳業再編 全国協議会・企画検討委員会
” 9月18日	乳業再編・関東ブロック説明会
” 21日	乳業再編・近畿、東海ブロック説明会
” 25日	乳業再編・東北ブロック説明会
” 27日	乳業再編・九州ブロック説明会
” 28日	乳業再編・中国四国ブロック説明会
平成25年 3月19日	乳業再編全国協議会同企画検討委員会

4．Jミルク事業関係

開催日	開催名
平成24年 5月11日	第1回需給等分科会
” 6月 1日	ミルクセミナー
” 7月11日	第2回需給等分科会
” 10月26日	第3回 ”
” 12月 7日	第4回 ”
平成25年 1月10日	第5回 ”

【広報関係】

1．広報委員会

開催日	開催名
平成24年 5月14日	第1回広報委員会
” 8月27日	第2回 ”
” 9月27日	第3回 ” （臨時：ジャパン・フード・フェスタ関連）
” 11月12日	第4回 ”
平成25年 2月18日	第5回 ”
” 3月04日	第6回 ” （臨時：食育事業について）

2. 連絡会議関係

開催日	開催名
平成24年 4月10日	4月度東京相談室連絡会
" 11日	4月度関西 "
" 5月10日	5月度東京 "
" 15日	東西相談室会議
" 6月 5日	6月度東京相談室連絡会
" 13日	6月度関西 "
" 7月 6日	7月度東京 "
" 8月 8日	8月度関西 "
" 10日	8月度東京 "
" 9月 7日	9月度東京 "
" 10月 5日	10月度東京 "
" 10日	10月度関西 "
" 11月 7日	11月度東京 "
" 12月 7日	12月度東京 "
" 12日	12月度関西 "
平成25年 1月10日	平成25年1月度東京相談室連絡会
" 21日	1月度関西相談室・業務打合せ(臨時)
" 2月 6日	2月度東京相談室連絡会
" 2月13日	2月度関西相談室連絡会
" 3月 4日	3月度東京相談室・業務打合せ(臨時)
" 6日	3月度東京相談室連絡会
" 25日	第2回東西相談室会議(乳業協会)
" 26日	第2回東西相談室・研修(千葉北部酪農農業協同組合・他)

3. 酪農乳業ペンクラブ関係

開催日	開催名
平成24年 4月18日	ペンクラブ幹事会
" 7月10日(2日間)	" 総会&研修会
" 23日	" 幹事会
" 8月24日	" 夏季懇談会
" 9月24日	" 幹事会
" 10月23日	" 秋季研修会
" 12月 5日	" 幹事会
平成25年 1月11日	" 幹事会
" 2月 1日	" 新年研修会
" 3月14日	" 幹事会

4. 「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」

開催日	開催名
平成24年 5月14日	「プロバイオティクス乳酸菌の特性解析と機能性ヨーグルト」
" 8月27日	「食品と放射能」
" 11月12日	「BSEの現状とリスク、その対策について」
平成25年 2月18日	「牛乳・乳製品の最新の有用情報(生活習慣病関連)」

5. Jミルク事業関係

開催日	開催名
平成24年 4月26日	第1回マーケティング委員会
" 6月21日	第2回 "
" 9月11日	第3回 "
" 6月 5日	第1回食育会議
" 10月 3日	第2回 "
" 12月 6日	第3回 "
" 14日(欠)	第4回マーケティング委員会
平成25年 1月29日	第5回 "
" 3月28日	第6回 "

. 生産技術部

1. 生産技術委員会

開催日	開催名
平成24年 4月24日	指定添加物(ビオチン)の調製粉乳への使用拡大について打合せ4回目
" 5月16日	指定添加物(ビオチン)の調製粉乳への使用拡大について契約書・覚書締結作業開始
" 7月 3日	指定添加物ビオチンの特殊ミルク・調製粉乳への使用拡大申請に向けての打合せ(厚労省)
" 11日	生産技術委員会
" 26日	乳等省令の容器包装に係るパブリックコメントに応募
" 8月10日	消費者庁・調製粉乳製造各社・乳協による日本製調製粉乳のヨウ素含量欠乏問題についての情報交換会
" 11月 9日	生産技術委員会事前打合せ
" 26日	乳等省令改正要望の状況確認(厚生労働省 基準審査課)
" 28日	新食品表示制度に関するパブリックコメントに応募
" 12月 4日	生産技術委員会
平成25年 1月31日	生産技術委員会、調製粉乳技術委員会合同懇話会
" 2月20日	消費者庁との意見交換会(調製粉乳技術委員会メンバー)
" 26日	乳等省令に関する調査事業検討会(野村総研)

2. 乳製品表示検討委員会

開催日	開催名
平成24年11月27日	乳製品表示検討委員会
平成25年 3月15日	乳製品表示検討委員会

3. 牛乳衛生講習会(地方協会との共催)

開催日	開催名
平成24年 7月 9日	牛乳衛生講習会(東京都千代田区)
" 8月17日	" (静岡県静岡市)
" 20日	" (岐阜県岐阜市)
" 22日	" (群馬県前橋市)
" 23日	" (愛知県名古屋市)
" 9月11日	" (香川県丸亀市)
" 13日	" (岩手県和賀郡)
" 21日	" (熊本県熊本市)

開催日	開催名
平成24年 9月25日	" (広島県広島市)
" 27日	" (福岡県福岡市)
" 10月 5日	" (北海道札幌市)
" 10日	" (福島県福島市)
" 18日	" (石川県金沢市)
" 11月 1日	" (長野県長野市)
" 6日	" (千葉県千葉市)

4. HACCP講習会

開催日	開催名
平成24年 4月 4日	第11回HACCPあり方検討会
" 5月 9日(3日間)	牛乳HACCP講習会(東京)
" 23日(3日間)	牛乳HACCP講習会(大阪)
" 6月21日	秋季HACCP講習会のテキスト内容打合せ(日本乳業技術協会)
" 8月21日	秋季HACCP講習会のテキスト内容打合せ(日本乳業技術協会)
" 10月23日(3日間)	牛乳HACCP講習会(東京)
" 11月20日(3日間)	牛乳HACCP講習会(大阪)
平成25年 1月28日(3日間)	HACCP指導(沖縄)

5. 官能評価員育成研修会

開催日	開催名
平成24年10月11日(2日間)	官能評価員育成研修会(第1回 東京都千代田区)
" 11月 7日(2日間)	" (第2回 東京都千代田区)
" 12月20日(2日間)	" (第3回 東京都千代田区)
平成25年 1月10日(2日間)	" (第4回 東京都千代田区)
" 2月14日(2日間)	" (第5回 兵庫県神戸市)

6. 牛乳微生物講習会

開催日	開催名
平成24年 5月31日	微生物講習会打合せ(新規事業について乳技協とすり合わせ)
平成25年 2月 5日	牛乳微生物講習会(東京)
" 8日	牛乳微生物講習会(大阪)

7. 外部会議への出席

開催日	開催名
平成24年 4月17日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会」
" 19日	全国飲用牛乳公正取引協議会「専門部会」
" 19日	食産センター「コーデックス対策委員会」
" 25日	Jミルク「平成24年度ポジティブリスト委員会」
" 5月14日	乳業連合会技術指導員会議
" 16日	輸入食品衛生推進協会理事会
" 6月11日	消費者庁表示関係打合せ
" 7日	輸入食品安全推進協会総会
" 12日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会」
" 7月12日	Jミルク「平成24年度ポジティブリスト委員会事前打合」
" 9月11日	食産センター「コーデックス対策委員会」
" 19日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会」

開催日	開催名
平成24年 9月26日	Jミルク「平成24年度ポジティブリスト委員会」
〃 10月12日	全国飲用牛乳公正取引協議会「専門部会」
〃 18日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会研修会」
〃 11月6日	Jミルク「ポジティブリスト検討委員会在京部会」
〃 13日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会」
平成25年 1月9日	国際酪農連盟日本国内委員会「食品規格専門部会/コーデックス乳・乳製品部会合同会議」
〃 17日	東京飲用牛乳協会「品質改善委員会」
〃 2月1日	全国飲用牛乳公正取引協議会「専門部会」
〃 1日	食産センター「コーデックス対策委員会」
〃 19日	大阪府牛乳協会「平成24年度衛生研修会」

8. 各種審議会・懇談会等の傍聴

開催日	開催名
平成24年 4月18日	消費者庁 第7回食品表示一元化検討会
〃 6月28日	消費者庁 第10回食品表示一元化検討会
〃 7月2日	食品安全委員会
〃 27日	国立医薬品食品衛生研究所 シンポジウム
〃 8月1日	日本食品衛生協会 食品衛生懇話会
〃 3日	消費者庁 第12回食品表示一元化検討会
〃 10月17日	関東農政局 平成24年度食品事業者表示適正化技術講座
〃 11月29日	消費者委員会 食品表示部会
平成25年 1月23日	消費者委員会 食品表示部会
〃 2月7日	容環協20周年記念シンポジウム
〃 26日	乳容器・機器協会セミナー
〃 3月4日	(社)日本食品衛生協会 食品衛生特別講演会
〃 7日	関東信越厚生局 総合衛生管理製造過程に関する講習会
〃 12日	チーズ衛生対策連絡協議会 平成24年度チーズ衛生対策講習会
〃 18日	食品安全委員会 第24回かび毒・自然毒等専門調査会

・環境部

1. 環境委員会他

開催日	開催名
平成24年 4月18日	第1回環境委員会
〃 23日	経団連環境安全委員会地球環境部会
〃 27日	第1回環境マネジメントWG
〃 5月8日	第1回牛乳PCR策定WG
〃 8日	第1回乳協自主行動計画推進WG
平成24年 5月16日	食品産業センター容リ分科会
〃 30日	日本容器包装リサイクル協会紙事業委員会
〃 31日	経団連地球環境部会自主行動計画WG
〃 6月13日	第2回環境マネジメントWG
〃 20日	第2回環境委員会、食品産業センター容リ分科会
〃 29日	食品産業センター環境委員会
〃 7月3日	第1回プラ推進協 広報・啓発委員会
〃 4日	食品産業センター製配販連携協議会説明会
〃 9日	プラ推進協企画運営委員会
〃 10日	第2回自主行動計画推進WG

開催日	開催名
平成24年 7月13日	プラ推進協 神戸市 市民・自治体・事業者意見交換会
" 17日	食品産業センター容リ分科会
" 27日	第1回容器包装ガイドライン策定WG
" 31日	第2回プラ推進協 広報・啓発委員会
" 8月 2日	食品産業センター容リ分科会
" 21日	食品産業センター容リ分科会
" 22日	第2回環境委員会
" 30日	経団連温暖化防止対策第3者評価委員会
" 9月 3日	札幌市民セミナー
" 4日	プラ推進協札幌市市民・自治体・事業者意見交換会
" 7日	プラ推進協企画運営委員会
" 10日	第2回牛乳PCR策定WG
" 13日	リデュース紙パック会議
" 18日	食品産業センター容リ分科会
" 10月 3日	第1回食品ロス削減商慣行取引検討WT
" 5日	第3回プラ推進協 広報・啓発委員会
" 17日	第3回環境委員会
" 22日	第3回環境マネジメントWG
" 25日	第2回容器包装ガイドライン策定WG
" 31日	プラ推進協仙台市市民・自治体・事業者意見交換会
" 11月20日	食品産業センター容リ分科会
" 12月 4日	第4回プラ推進協 広報・啓発委員会
" 6日	第4回環境委員会
" 7日	プラ推進協企画運営委員会
" 12日	経団連循環部会フォローアップ説明会
" 18日	食品産業センター容リ分科会
" 19日	CFP・ISO委員会
" 20日	第4回自主行動計画推進WG
" 26日	経団連自主行動計画委員会
平成25年 1月 3日	第1回食品ロス削減商慣行取引検討WT
" 15日	食品産業センター容リ分科会
" 15日	第5回プラ推進協広報・啓発委員会
" 18日	食品ロス抑制WT
" 2月 1日	第4回環境マネジメントWG
" 8日	LL紙パックリサイクル推進研究会運営委員会
" 12日	第5回自主行動計画推進WG
" 12日	第3回容器包装ガイドライン策定WG
" 15日	第6回プラ推進協広報・啓発委員会
" 18日	食品産業センター容リ分科会
" 20日	第5回環境委員会
" 22日	プラ推進協関東圏意見交換会
" 28日	LL紙パックリサイクル推進研究会運営委員会
" 3月14日	食品産業センター環境委員会
" 19日	食品産業センター容リ分科会
" 28日	プラ推進協第4回セミナー

2. 全国牛乳容器環境協議会関係

開催日	開催名
平成24年 4月 4日	3R推進団体連絡会運営会議
" 11日 (4日間)	日韓フォーラム(慶州市)
" 18日	広報委員会、専門委員会
" 21日	市進リサイクル講習会
" 25日	理事会、総会
" 5月 9日	3R推進団体連絡会運営会議
" 16日	第1四半期運営委員会
" 25日	イベント委員会
" 30日	日本容器包装リサイクル協会紙事業委員会
" 30日	飲料用紙容器リサイクル協議会理事会・総会
" 6月 4日	3R推進団体連絡会運営会議
" 5日	イベント委員会
" 6日	総務委員会、支部組織委員会
" 7日	紙容器包装リサイクル推進協議会総会
" 9日 (9日間)	北欧視察(LCA調査、欧州リサイクル状況調査)
" 20日	6月次運営委員会
" 21日	広報委員会
" 22日	書面理事会
" 26日	3R推進団体連絡会市民リーダー講座
" 7月 4日	" 運営会議
" 5日	総務委員会、支部組織委員会
" 10日	広報委員会
" 11日	3R推進団体連絡会高津区民市民育成リーダー講座
" 13日	イベント委員会
" 14日	大月市リサイクル講習会、名古屋市リサイクル講習会
" 18日	7月次運営委員会
" 24日	西東京市リサイクル講習会
" 30日	飲料用紙容器リサイクル協議会検討WG
" 8月 1日	3R推進団体連絡会運営会議
" 2日	相模原市リサイクル講習会
" 8日	総務委員会、支部組織委員会
" 9日	広報委員会
" 10日	品川区リサイクル講習会
" 19日	中野区ZEROリサイクル講習会
" 20日	3R推進団体連絡会新宿区民市民育成リーダー講座
" 22日	第2四半期運営委員会
" 24日	富士市意見交換会
" 28日	京都市容リ制度検討会公開ヒアリング
" 9月 3日	3R推進団体連絡会札幌市3Rセミナー
" 5日	総務委員会
" 7日	3R推進団体連絡会運営会議
" 12日	" 高津区民市民育成リーダー講座
" 18日	イベント委員会
" 19日	9月次運営会議
" 27日	3R推進団体連絡会運営会議
" 28日	飲料用紙容器リサイクル協議会検討WG
" 10月 1日	支部組織委員会
" 2日	総務委員会
" 5日	飲料用紙容器リサイクル協議会容リヒアリング
" 9日	広報委員会
" 10日	愛知県日進市立小学校出前授業
" 11日	滋賀県神戸小学校出前授業
" 14日	茨城県カスミ環境フェア

開催日	開催名
平成24年10月17日	10月次運営委員会
" 19日	3R推進団体連絡会運営会議
" 22日	日本容器包装リサイクル協会紙事業委員会
" 31日	環の縁結びフォーラム
" 11月 1日	3R推進団体連絡会仙台市3Rセミナー
" 6日	広島市大町小学校出前授業
" 7日	3R推進団体連絡会運営会議
" 9日	総務委員会
" 12日	イベント委員会
" 13日	栃木県茂木小学校出前授業
" 15日	紙パックリサイクル東京北部地域会議
" 17日(2日間)	三越銀座店リサイクル講習会
" 19日	広報委員会
" 22日	「遊ぶ学ぶ」コンクール本審査会
" 21日	第3四半期運営委員会
" 28日	3R推進団体連絡会市民リーダー育成講座
" 30日	支部組織委員会
" 12月 4日	総務委員会
" 5日	3R推進団体連絡会運営会議
" 6日	12月次運営委員会
" 13日(3日間)	2012年エコプロダクツ展
" 19日	広報委員会
" 21日	容環協理事会
平成25年 1月 8日	総務委員会
" 9日	3R推進団体連絡会運営会議
" 11日	イベント委員会
" 16日	1月次運営委員会
" 22日	横浜市日枝小学校出前授業
" 28日	3R制度研究会小委員会
" 2月 5日	総務委員会
" 6日	3R推進団体連絡会運営会議
" 7日	容環協創立20周年記念シンポジウム
" 13日	広報委員会、支部組織員会
" 15日	イベント委員会
" 20日	第4四半期運営委員会
" 3月 4日	総務委員会
" 5日	広報委員会
" 6日	3R推進団体連絡会運営会議
" 8日	イベント委員会
" 9日	相模原市アリオ橋本リサイクル講習会
" 13日	3月次運営委員会
" 22日	容環協理事会

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。